

# いじめに関する心理学的一考察

神谷 かつ江 (教育心理学)

## 1 はじめに

いじめ問題が再発している。

文部科学省が平成18年9月に発表した、「生徒指導上の諸問題の現状について」によると、平成17年度の全国の公立学校でのいじめの発生件数は20,143件であり、10年前の60,096件に比べて大幅に減少している。このことは家庭や学校を含めた地域ぐるみの指導体制がととのえられ、外的統制の効果が一定にあったものと考えられる。

しかし学生相談室を訪れる学生や授業受講者にいじめについて聞いてみると、相当数の者が小学校高学年から中学校にかけていじめられた経験を有し、その人たちのなかには真剣に自殺を考えたという者が数人いた。このことを実証するかのように、平成18年8月には、愛媛県今治市で中学校1年生の男子生徒が、いじめを苦に自宅がある道路沿いの電柱で首吊り自殺し、同年10月には福岡県筑前町で、中学校2年生の男子生徒が「いじめられて生きていけない」という遺書を残して自宅の納屋で、ビニール紐で首を吊り窒息死した。このような事件が起こるたびに、なぜこのようなことが起きてしまったのか、防ぐ手立てはなかったのか悔やんでならない。また自殺にいたらないまでも、いじめによる心の傷は深く、その後の人格形成や対人関係に深い痕跡を残すようである。

そこで本稿では相談事例を通して知られたいじめの実際を明らかにするとともに、いじめへの対処と指導的介入について論じてみたいと思う。なお、ケースの紹介にあたっては、プライバシー保護のため匿名を用い、内容についても差し支えない範囲内で改変していることをお断りしておきたい。

## 2 いじめとは

いじめとは森田洋司・清水賢二(1994)によれば、同一集団内の相互作用過程において、優位に立つ一方が、意識的あるいは集合的に、他方に精神的・身体的に苦痛を与えることと定義している。ここでいう同一集団内とは、クラスや部活動のように、あらかじめ必然的に決められた集団のなかで、子どもたちが毎日いやおうなしに顔を合わせる、しかも自分の意志では逃れることのできない仲間集団のなかでできあがっている人間関係を背景にしているということであり、1対1のけんかや偶発的に発生した通りすがりのトラブルではないということである。また優位に立つ一方とは、「加害者の社会的優位性、身体的優位性、数のうえでの優位性」であり、強者である彼らが、何らかの意味で劣位にある弱い立場にいる者に、弱い者いじめをおこなうということである。

いじめ問題を複雑にしているのは、遊びなのか、ふざけなのか、いたずらなのか、いじわるなのか、その境界が曖昧なことだろう。暴力を振るわれたり、金銭を要求されたり、物を盗まれたりして、その証拠が明らかならばいじめとして認識されやすいが、冷やかしやからかい、一緒に遊んでいるように見せかけておこなう無視や仲間はずし、悪口などは周囲から認識されない場合がある。しかし文部科学省の定義に見られるように、自分より弱いものに対して、一方的に身体的・心理的な攻撃を継続的に加えて、相手が深刻な苦痛を感じているものがいじめであると指摘しているように、いじめられる側が深刻な苦痛を感じているならば、それはいじめなのだとして認識することが、いじめ問題を複雑化せず解決の糸口につながるのではないかと考える。

### 3 大河内清輝君の事件を風化させるな

この事件は平成6年11月27日に愛知県西尾市で起こった。大河内清輝君は当時中学校2年生。同級生から執拗に暴力を受けたり、金銭をたびたび要求されるいじめに遭い、自ら命を絶ってしまった。まだ13歳という年齢であった。2,700字以上の長い遺書には、4人からお金をとられたり、暴行を受けたり、ぼしり1号として無理難題を要求されたことが細かく書かれている。遺書の一部を紹介する。(『朝日新聞』平成6年12月5日付より引用)。

何で奴らのいいなりになったか？それは、川のできごとがきっかけ。川につれていかれて、何をするかと思ったら、いきなり、顔をドボン。とても苦しいので、手をギュッとひねって、助けをあげたら、またドボン。こんなことが4回くらい？あった。……  
足がつかないからとても恐怖をかんじた。それ以来、残念でしたが、いいなりになりました。

家族のみんなへ-----僕からお金をとっていった人たちを責めないで下さい。僕が素直に差し出してしまったからいけないのです。-----

いつもいつも使いばしりにもされていた。それに、自分にははずかしくてできないことをやらされたときもあった。そして強せいの、髪をそめられたことも。でもお父さんは僕が自分でやったと思ったので、ちょっとつらかった。-----

なぜ、もっと早く死ななかったかというと、家族の人が優しく接してくれたからです。学校のことなど、すぐ忘れることができました。-----最後までご迷惑をかけてすいません。忠告どおり、死なせてもらいます。でも自分のせいにされて、自分が使ったのでもないのに、たたかれたり、けられたりって、つらいですね。僕はもうこの世にいません。お金もへる心配もありません。-----

僕は、他にいじめられている人よりも不幸だと思います。まず人数が4人でした。だから、1万円も4万円になってしまうのです。しかもその中の3人は、すぐ、なぐったりしてきます。あと、とられるお金のたんいぐ1ケタ多いと思います。これが僕にとって、とてもつらいもの

でした。これがなければいまでも幸せに生きていたのと思います。……

大河内君は現在生きていれば26歳。あのような陰湿で残忍ないじめにあわなかったら、幸せな日常生活を送っていたにちがいない。この事件を風化させないためにも、特殊なケースとして扱うのではなく、子どもは時には大人が考えている以上に、残忍な行為に走ってしまうこともあることを忘れてはならない。彼の死を無駄にしないためにも、いじめは絶対に許されないという強い決意をもって、指導を徹底させることが必要であろう。

### 4 いじめの発生条件と集団

いじめは集団の中で発生する。人が集団を形成するとき、形成された集団は、個々のメンバーにさまざまな力を行使する。その1つが集団凝集性であり、もう1つが集団圧力である。集団凝集性とは集団メンバーに対して、集団にとどまらせるように働きかける力であり、凝集性の強い集団は通常はまとまりのよい集団となる。集団圧力とは、集団メンバーに考え方や好みや行動を似かよったものにする力であり、それが集団規範となっていく。通常、明瞭な集団規範には強力な集団圧力が伴う。また集団は集団独自の雰囲気形成する。この雰囲気は集団メンバーにとって、呼吸に必要な空気と同じくらい重要である。雰囲気の良い集団、悪い集団というもの存在する。筆者が受け持っている学級にしても、まとまりがあり、授業態度も良好で授業が進めやすい学級がある一方、成員間がばらばらで授業に対する意欲も低くまとまらない学級がある。このような学級は集団メンバーにとっても居心地が悪く、所属意識が希薄となり当然退学者も多くなる。学級の雰囲気といじめの発生条件を直接的に結びつけることには無理があると思うが、ある条件が重なったときいじめが発生しやすいように思われる

菅野純(2001)はいじめが生じやすいクラスの特徴を次のようにあげている。

- ① 私立受験、過度なサブスクール活動などでストレスを抱えている子が多い。つまり学

- 校がストレスの発散場所となっている。
- ② 家庭的事情により心の中にすさみやさびしさを抱えている子が多い。
  - ③ 授業がわかりにくかったり、進度が速すぎたりする。このことが退屈感や劣等感、苛立ちなどを生じさせることに。
  - ④ 子どもたちが先生から守られている、認められている、可愛がられているという実感を持つことが少なく、愛情飢餓状態におちいっている。このことがハングリーな心を満たそうとして憂さ晴らしをしたり、自己中心的行動に走らせる。
  - ⑤ 一部の子どものみが認められたり評価されたりしている。羨む心はその子への敵意や攻撃となる。
  - ⑥ 何がしてよいか、悪いかの基準が明瞭でない。いつ自分へ無法行為がふりかかるか不安になり、力がクラスを支配するようになる。
  - ⑦ きまりが厳しすぎたり、競争関係が厳しすぎたりして窮屈な雰囲気である。
  - ⑧ 保護者が教師に信頼感を寄せていない。
  - ⑨ 授業に工夫やダイナミックさ、魅力に欠ける。単調で代わり映えのしない授業。
  - ⑩ 担任が孤立無援の状況にいたり、同僚に心を閉ざしがちである。そのためいじめの早期介入がおこなえない。
- 以上をまとめてみると、①その集団が閉じられている。②慢性的なストレス状態が存在する、③変化が少なく単調な生活である、といった条件があげられる。このような条件に当てはまったとき、いじめが発生するといえそうである。

## 5 女子学生といじめ

学生たちはこれまで多くのいじめを経験してきた。いじめの実態を知るうえで重要な手がかりになると思われるのでその一部を紹介する。

A子さん

私は小学校5年生の時にいじめにあいました。大切な筆箱に油性ペンで落書きされて、「ブス」「死ね」と書かれていました。先生に相談して

も相手にされず、友達にも言えずつらかったです。私の救いは母でした。母が話を聞いてくれました。先生も母のようにいじめに気づいて力になってほしかったです。

B子さん

私は5年生の時にいじめにあいました。仲のよかった友達が突然無視してきたのです。そしてすごくショックだったのは机の中に砂場の土が盛られていたことでした。泣きながら片付けして、先生にも言えずどうしようもない毎日でした。休み時間も一人ぼっち。

運動場を眺めて私も遊びたいと思いました。先生は気づいてははずです。でも何もしてくれませんでした。

C子さん

中学2年の時にとってもつらいいじめを経験しました。担任の先生が新任だったことと悪ガキ連中がたまたまそろっていたこともあり、私のクラスは男子がやりたい放題の荒れたクラスでした。私は気の強い性格もあり、よく先頭をきって男子にはむかっていきました。ある日一人の男子生徒のノートに「死ね」「バカ」「うざい」といった文字が書かれていました。クラスがこれ以上混乱しないようにと思った先生は、私だけ呼びだして「あなたでしょう」と叱責しました。それから私はありもしないことで男子生徒からやり玉に挙げられ、たくさんの仕返しを受けました。本当につらかったです。

D子さん

私は中学2年生の2学期から3学期にかけてひどいいじめをされました。それまで仲がよかった友達が突然無視してきたのです。その理由を知りたくて教えてほしいとお願いしても、言ってくれません。無視は他の友達まで広がっていきました。今でも何でそんなことをされたのかわかりません。でもそのことが心の傷となって私は人間が怖くなりました。

E子さん

私は小学校6年生の時に友達だと思っていた子に無視されていました。思い切って先生に相談したところ、「気のせいじゃない」と言われてそれ以上言えなくなってしまいました。いじめられて何か行動を起こしてくれる先生は少ない

と思います。先生はもっとじっくり私の話を聞いて対処してくれたらと、今でも思っています。

F子さん

私のクラスにいじめにあっている子がいました。その子は靴を隠されたり、鉛筆をとられたり、いじめはエスカレートしていくばかりでした。私はいじめている集団とも仲がよかったので、次第にその子と話さなくなり無視をするようになりました。ある日私が帰ろうとするとその子から話しかけられました。「悪いけれども下駄箱に〇ちゃん(いじめている子)いないか見て来てくれる」と言われました。私が「大丈夫。いないよ」と声をかけると、久しぶりにその子の笑顔を見ました。こんなつらい思いまでして学校にきて、しかも人数の多いほうに自分も流されて、いじめにあっていた子は何も悪くないのに、私までシカとしてしまってとても悪かったと思っています。

G子さん

私はわざと他人を傷つければそれはどんなに小さなことでもいじめだと、あの当時(中2)はわからなかった。私もみんなと同じようにグループ内のある子は無視し続けていた。その子はその影響からか高校に入学しても人間関係がうまくいかず、退学してグレてしまった。あの子の人生はあのいじめで崩壊してしまった。今でも深く心が痛む。

H子さん

私は小学校5年生から中学校にかけていじめにあいました。女子のグループでは必ず一人リーダー的な子が出現します。そのリーダーが気に入らない子がいると、必ず全員で無視をしてひどいときには何か隠したり、近くで聞こえるように何か言ったり、わざと笑ったりします。昨日までの友達をターゲットに次から次へと代わっていったりします。今思うと子どものくせにすごく残酷なことをしていたと思います。

I子さん

中学1年のとき、いじめる立場になったことがあります。きっかけは少し気が合わなかったとか、かわい子ぶりっこするとか、喋り方が気に入らないとか、すごく小さなことでした。そして集団で仲間外れをしたことが問題となって、

学級で話し合いが行われました。「嫌なことがあるならばはっきり堂々と言えればいい」と先生に言われて、お互い傷つけたり傷つけられたりしました。それがきっかけかわかりませんが、今ではリーダー的な子といじめられてた子と私とがすごくいい友達になれました。あのころむかつく気持ちを我慢して表面上だけ仲良くしていたら、こうはなれなかったと思います。先生が取り持ってくれて、お互いの気持ちを正面からぶつけ合えたので、わかりあえたのかなと思いました。

J子さん

私は小学校5年生のときにいじめがあった。いじめは卑怯なことに先生の目の届かないところでおこなわれる。ちょっと行動がとろそうな子を標的にして、休み時間に仲間外れにしたり無視したりする。いじめられている子は先生に言えないし、まわりの子も先生に相談しない。今思えば自分たちの勇気のなさが一人の子を傷つけてしまったのだ。今更悔やんでも遅いけれど、みんな先生に相談すればよかったと思う。

以上みてきたように女子学生もさまざまないじめを経験してきた。女子学生がいじめの特徴をあげるとすれば、同性の同じ学年の友達の存在である。小学校高学年から中学生にかけて、女子生徒は同じ年の心から打ちとけられる友達(親友)を求める。友達と一緒にいなければ不安でいたたまれなくなり、身を寄せ合って行動をとる。しかもその仲間うちでお互いの感情をあれこれ押し量り、喜んだり悲しんだりしている。友達がいないとやっていけないものの、一緒にいると気を遣うというなかで学校生活を過ごしている。周囲から見ると仲のよさそうな仲間集団のなかで無視をしたり、仲間はずしをしたり、冷やかす、からかい、持ち物隠しがおこなわれる。いじめる子といじめられる子の関係が、前から仲が悪かった子より、仲が良かった子がいじめるというのも密接な仲間集団のなかで起こる内部分裂であろう。いずれにしろこのような行為がいじめられていた子に与える影響は大きく、登校拒否やひきこもりと深く関わっているといえそうである。

## 6 攻撃性と思春期

精神分析学の創始者フロイトは、人は常に攻撃的な存在であり、攻撃性を人間がもつ生得的な本能欲求であると提言した。また比較行動学のローレンツは、強い子孫を残すため、種族の繁栄と進化のためには攻撃本能は不可欠であると主張している。こうした考えは、私たちの心にそうかもしれないと同意する部分がある一方、教育の場でいじめ問題に取り込もうとする人たちに無力感や徒労感をもたらすかもしれない。とくに小学校高学年から思春期にかけて、子どもは第二次性徴の発現により大きく揺れ動く。身体面では、男女ともに身長や体重が急激に増加し、体格に著明な変化をきたす。性別に分けてみると、男子は声変わり、陰毛、声変わり、ひげなどの発生や射精・夢精など精通現象を経験する。女子の場合は初潮を迎え、陰毛、声変わり、乳房の発達などが生じ、女らしい体つきに変化する。このような身体の急激な変化は大人の仲間入りをしたという誇らしい気持ちを生じさせる反面、これまでの身体像を打ち破るものであることから、不安や自己嫌悪、恥ずかしさや不快感といったさまざまな情緒的反応を引き起こす。こうした身体的・情緒的変化は攻撃的欲求と性的欲求を目覚めさせ、子どもの中には不純異性交友などの直接的行動へと走る者もいる。また摂食障害やうつ的傾向を発生させたり、非行や反社会的行動をとってしまう者もいる。だが多くの子どもは、その不安を打ち消すかのように、勉強やクラブ活動といった社会から認められる行動で充足しようとする。

## 7 子どものサインを見逃すな

いじめられている子がいじめの実態を教師に訴えることは非常に少ない。しかし子どもは何らかのサインを教師や保護者に送っている。サインを早期にキャッチし、いじめを発見することがいじめ防止へとつながる。次の資料は東京都教育委員会が発表した、いじめ発見のポイントである(『東京都教育庁指導部』いじめ問題解決への対応策について 平成18年10月26日付より引用)。

### いじめの発見ポイント

#### 1 表情・態度

- 笑顔がなく沈んでいる。
- ぼんやりとしていることが多い。
- 視線をそらし、合わそうとしない。
- わざとらしくはしゃいでいる。
- 表情がさえず、ふさぎこんで元気がない。
- 周りの要すを気にし、おずおずとしている。
- 感情の起伏が激しい。
- いつも一人ぼっちである。

#### 2 身体・服装

- 体に原因が不明の傷などがある。
- けがの原因をあいまいにする。
- 顔色が悪く、活気がない。
- 登校時に、体の不調を訴える。
- 寝不足で顔がむくんでいる。
- ボタンが取れたり、ポケットが破けてたりしている。
- シャツやズボンが汚れたり、破けたりしている。
- 服に靴の跡がついている。

#### 3 持ち物・金銭

- かばんや筆箱等が隠される。
- ノートや教科書に落書きがある。
- 机や椅子が傷つけられたり、落書きされたりする。
- 作品や掲示板にいたずらされる。
- 靴や上履きがかくされたり、いたずらされたりする。
- 必要以上のお金を持っている。

#### 4 言葉・行動

- 他の子どもから、言葉かけを全くされない。
- いっぽぼんと一人でいたり、泣いていたりする。
- 登校を渋ったり、忘れ物が急に多くなったりする。
- 教室にいつも遅れて入ってくる。
- 職員室や保険室の付近でうろうろしている。
- いつも人の嫌がる仕事をしている。
- すぐ保険室に行きたがる。
- 家から金品を持ち出す。

#### 5 遊び・友人関係

- いつも遊びの中に入れない
- 友人から不快に思う呼び方をされている。
- 付き合う友達が急に変わったり、教師が友達ことを聞くと嫌がる。
- 笑われたり冷やかされたりする。
- グループで行う作業の仲間に入れてもらえない。
- 特定のグループと常に行動を共にする。
- プロレスごっこ等にいつも参加させられている。
- よくけんかが起こる。
- 他の人の持ち物を持たせられたり、使い走りをさせられたりする。

#### 6 教師との関係

- 教師と目線を合わせなくなる。
- 教師との会話を避けるようになる。
- 教師とかかわろうとしない、避けようとする。

## 8 いじめを発見したら

教師がいじめの訴えを受けたとき、あるいは教師自ら発見したとき、初期対応をどうするかは重要である。この初期対応の仕方如何によって、学級内で終息できるものが、保護者や教育委員会、マスコミをも巻き込んだ大問題に発展してしまうケースもある。そして当事者である子どもが大きな苦しみを味わい、未解決のまま混迷化してしまうといっても過言ではない。初期対応方法について菅野純(2001)は、次のように述べているのでその要旨を引用して紹介する。

①子どもの訴えを丁寧に聞く。単刀直入にいじめの問題を訴える子どももいれば、救いをもとめてもうまく表現できない子どももいる。また教師の反応をうかがってから本題に入る子どももいる。教師はまず子どもの緊張を和らげる。そして子どもの態度や行動を注意深く見守り、言葉以外のものにも目配せする。

②子どもはやっとの思いで相談に来たのだと、子どもの思いを大切に、その重みを考えてしっかり受け止める。

③事実を確かめながら聴く。

- 1) いつ、だれに、どうされたのかをできるだけ具体的に把握する。
- 2) いじめ行為に対してとった子どもの対応、そのときの目撃者、他児とのかかわりなど、いじめの状況を詳しく聴く。またその件について親にどのように相談し、親はどのように対応したか、友達に相談する人はいかなど、子どもの周囲の人々の支援状況なども把握する。
- 3) 誠心誠意熱心に聴くこと。話すことで子ども自身の曖昧が部分が明確になっていく。
- 4) 子どもの訴えを聴いていると、子どもの誤解や過敏さから事実以上に問題視しているのではないかと感じられることがある。こうした場合に気持ちの行き違いが生じやすい。このことを教師が察知した場合、子どもは話さなくなってしまう。
- 5) 大切なことはいじめかいじめではないかを明らかにすることではない。本人が苦痛と

感じているならそれを受け止め、取り除いてあげることが先決である。

④対策を話し合う。

いじめについての情報を子どもから得た段階で、対策について話しあう。

対策として

- ・ 今は先生が見守るだけでよいか。
- ・ クラス全体にそれとなく指導する。
- ・ アンケート調査など他にもいじめがないかも含めてクラス全体に積極的にでる。
- ・ いじめ側を呼んで、個別的に介入指導する。

⑤保護者との連携を図る。

- ・ 保護者の悩みや気持ちを真摯に受け止め信頼関係を深める。
- ・ 事実を正確に伝え、家庭での対応の仕方、学校との連携について助言する。
- ・ いじめの問題を、児童・生徒と保護者との関係を見直す機会となるよう助言する。
- ・ 相談機関など、積極的に情報提供する。

## 9 いじめについて考えるために

私は小さい頃からいじめられっ子です。協調性がなく、団体行動が苦手、自分勝手に、わがままなうえ、内向的な性格だからだと思います。この年齢になると、こんな私でも友だちと仲良くやっていますが、子どもは残酷です。自殺する子どもの気持ちがよくわかります。「いじめられる側に原因がある」確かにそうです。でも簡単にそれが直せるくらいなら、はじめからいじめられる前に直します。それができないから私は今でもいじめられっ子です。いままで19年間生きてきて、何回自殺を考えたことでしょうか。道路に飛び出そうと思ったにも、怖くてできないうちに車がこなくなってしまうことや、手首を切ろうとしても怖くて切れないこともありました。いまから思うと、小学校の先生にいじめられたことやあと親-----大人からの方が、傷が深いような気がします。小さくて弱い心のときにいじめられるとすごく悲しい。自分は生きていても意味がないんだと思ってくる。というか、私はそう言われ続けてそんな気になりました。何度も「生きていてごめんなさい」って

謝りました。あんなにつらい思いをして、よくここまで生きてきたなあと思う。言われるとおりに、私はふてぶてしいずうずうしい人間なのかもしれない。でも今、死ななくてよかったと心から思います。私は本当に生きていてもしかたないんだと信じていたのに、今では自分が好きだからです。他人にどう言われても、ひどいことを言われても、私は自分で自分が好きになれたから、今生きていてよかったと思います。というか私のことを大切にしてくれる人、好きでいてくれる人、必要としてくれる人の存在に気づいたからです。だから私は自分が大切です。今、つらくて、自殺したい人に私の気持ちを伝えたい。今どんなに苦しくても、何年かしたら、きっと昔のことと思える日が来ます。幸せな日が来るかもしれないのに、それを自分でとめてしまったら、その人の人生は悲しいだけのものになってしまいます。生きていたら変わったかもしれないのに、だからがんばってほしい。

学生といじめ問題を考えるとき、私は上記プリントを配布する。これを書いたK子さん(卒業生)は、自らが語るように、団体行動が苦手な協調性がなく、自分勝手にわがままなうえに内向的な性格のため、格好のいじめの標的になったという。こんなK子さんがいじめを克服できたのは、大切な人の存在である。自分のことをサポートしてくれる人、好きでいてくれる人、必要としてくれる人の存在に気づき、この人たちとの温かい交流が自尊感情の獲得へとつながった。

自尊感情とは健康な自己愛(フェダーン)であり、それは社会的な是認と受容(エリクソン)のもとで形成される。すなわち人生初期における母子関係のなかでの愛情交流に始まり、ついで学校や集団社会における親以外の他人とも交わり経験のなかで自己の状況を評価したり、その結果を予測するという認知能力と密接に結びついて発達していく。しかしいじめられた人にはポジティブな自己像を持っていないものが多く、自分はだめな人間だ、みんな私が悪いからと自分と他人を比較し、自分に非があるとして自分を責める。また他人からの好ましくない言動や

行動はすべて自分のことだと勘ぐったりする。つまりネガティブな自己像が常につきまといている。

石川嘉津子は両親から情緒的に支持され自律性を尊重されていると認知している人ほど自尊感情が高く、自尊感情の高い親は、子どもも自尊感情が高いと報告している。

また繁多進はネガティブな自己像をもつ子どもは、親もネガティブな自己像の持ち主であると指摘している。このことは自信の獲得や心理的安定感さらには保証を受けていないということであり、親は子どもの支えとなっていないということである。K子さんが保護者以外の人から、自尊感情を獲得できたことは望外の幸せであろう。このプリントを読んで、自らの小学校時代と重ねて泣き出しそうになってしまう者、真剣にいじめ問題を考える者、無関心さをよそおう者など、学生の反応はいろいろだが、いじめ問題を一緒に考えるよいきっかけとなることには間違いないようである。

## 10 まとめ

これまでの相談や研究を通して感じたことを列記してまとめたい。

- 1 いじめによる心の傷は深く、その後の人格形成に少なからず影響を与える。早期にいじめ問題を発見してその対応に当たること。
- 2 第三者がいじめではない、あそびだ・ふざけだといってもいじめられている子が心理的に苦痛を感じていればそれはいじめなのであると認識することが大切である。
- 3 日ごろから温かい人間関係の形成に努めること。
- 4 教師が一人で抱え込まないで、他の教職員に協力を求めること。
- 5 教師は毅然とした態度で、いじめは絶対に許さないという態度をとり続けること。相談事例の中には「先生は知ってて知らんぷり」、「気づかないふりをしている」という、教師に対する指導不足を嘆く意見が数件あった。子どもたちは教師に期待を寄せている。

- 6 いじめの初期対応の仕方がいじめ解決を左右する。「気のせいだ」「思い過ごし」などといって軽視しないこと。
- 7 人間の本能的欲求の1つである攻撃的欲求を理解し、子どもが欲求不満状態にならないようなオープンな雰囲気をはたかせること。

#### 引用・参考文献

- 文部科学省初等中等教育局「生徒指導上の諸問題の現状について」2006年9月
- 菅野純「教師のためのカウンセリングワークブック」金子書房 2002年
- 上野一彦・松村茂治「児童の臨床心理」『いじめ』放送大学教育振興会 1999年
- 朝日新聞 1994年12月5日朝刊
- 森田洋司・清水賢二「いじめ—教室の病」金子書房 1994年
- 遠藤辰雄「アイデンティティの心理学」ナカニシヤ出版 1981年
- 石川嘉津子「Self-esteemと両親像」京都大学 1980年
- 繁田進「わが子をいじめっ子・いじめられっ子にしない家庭教育」『児童心理』金子書房 1985年
- 東京都教育委員会「いじめ解決への対応策について」2006

—児童教育学科 初等教育専攻—